



ブループラネットラン財団 (BPRF) ケーススタディ&成功談

1. シエラレオネ、フリータウンとアレンタウン

西アフリカのシエラレオネは、近年、様々な困難をくりぬけてきましたが、数々の内戦が終了して以降、世界の関心がさらに高まっています。BPRF/PWX では、3年前(設立当時)からSafer Futureと協力して、学校の屋根や必要な場所に雨水貯水システムを導入するなどソリューションを提供しています。

より安全な未来のための青少年開発プロジェクト(Safer Future Youth Development Project (略)SFYDP)は、非営利、非政府、無宗派の地域組織であり、とくに青少年を対象に住民の生活の向上を目的に活動を行っています。SFYDPでは、遠方のコミュニティー向けの生活スキルのトレーニングや、雨水貯水システムの導入と井戸の修理による水資源の改善を通じて、地方や遠隔地のインフラストラクチャの開発と維持に取り組んでいます。

下記の表は、BPRFが資金協力し、Safer Futureが実施したシエラレオネの水プロジェクトの概要です。

村の名称	フリータウンからの距離	備考	水プロジェクト導入前	水プロジェクト導入後
ポートルコ地区(マママ、マグボントソ、マケンデ)の学校	50 km		学校は、すべて地方にあり、安全な飲み水が不足している。学校近辺の井戸は機能していないか、水の質が悪い。 2,550名相当の住民が影響を受けている。	地下埋蔵型雨水貯水タンクを3つ設置。 母親と水汲みに行く必要がなくなったことから、特に女子の教育率の増加がみられた。

ビンツの話(シエラレオネ)

私はビンツ・カマラ、11才です。アレンタウン南部の「フェイス・イン・クライスト小学校」の近くに住んでおり、5年生です。

私は7人兄弟の末っ子です。兄弟は全員同じ家に住んでいます。私は、以前、家からとても離れた小川まで、急な坂を上り下りして水汲みに行っていました。これは、毎日学校に行く前の朝の仕事でした。近所の子供たちは全員が、学校に行く前と学校が終わった後に、水汲みにいかなければいけないのです。学校の飲み水も運ばなくてははいけません。

小川は洗濯その他にも使われており、非衛生的でコミュニティーの人達の健康にもよくありません。小川は沢山のごみで汚れています。特にコレラが発生したときなど、コミュニティーの人達の多くがよく病気に悩まされるのも無理はありません。

でも、2、3週間前に、学校の雨水貯水タンクが完成してからは、状況が一変しました。洗濯や水浴びには、小川に行かなければいけません、飲み水は、タンクからきれいな浄水が出ます。ですから、もう危険で険しい道を通り、小川まで何度も往復する必要がないのです。ポンプやタンクの維持と水供給のために、100レオンを委員会に支払う必要があります。

私は、今でも近所の人と同様に洗濯や水浴びのために小川までいかなければいけません。でも、健康状態はずっとよくなり、学校の勉強をする体力と、時間の余裕ができました。



2. マラウイ、エグウィニ地区

マラウイの人口1千万人のうち、きれいで安全な飲み水にアクセスできるのは、その半分だけです。その結果、アミーバ赤痢など、水に起因する疾患が蔓延しています。東南アフリカに位置するこの国の状況は、人口の50パーセントが15才以下であり、識字率は40パーセントにしか達しておらず、90パーセントが地方に住み零細農業に依存しているという事実により、さらに複雑になっています。世界銀行の推定によると、マラウイの平均年収は170ドルだということです。

下記の表は、BPRFが資金協力し、Water For People が実施したマラウイの水プロジェクトの概要です。

村の名称	フリータウンからの距離	備考	水プロジェクト導入後	水プロジェクト導入前
エングウィニ、マラウイ、ムズズ地区	367 km	<p>国全体の4分の1に相当する人口がマラウイ湖の近辺に住み、安全でない湖の水を飲料水として使用し、湖の魚を食料として捕獲している。</p> <p>男性は湖に小さな家畜の群れ</p>	<p>マラウイの南の地区であるエングウィニ・エリアには1万500人が居住している。</p> <p>エリアは23の小さな村に分かれており、どこも水・衛生・医療サービスの不足に悩まされている。何年にもわたり農業部門が伸び悩み、貧困地域となっている。</p>	<p>井戸と、衛生のための換気付きトイレが10件、チルクワ学校に設置された。飲み水へのアクセスが容易になり教育率が増加した。</p> <p>エングウィニ医療センターに井戸が設置され、20年間ぶりにコミュ</p>

	<p>を誘導し、水を飲ませている。</p> <p>女性は湖の水で服を洗い、家族は体を洗っている。</p> <p>湖の水から遠いコミュニティでは、5時間歩いて水汲みを行い、水は浄水のために沸騰させる必要がある。</p>	<p>経済の悪化は、タバコ植物の売り上げの減少と、雨不足が原因。</p> <p>このエリアには仕事がないことから、多くの男性は南アフリカのダイヤモンド鉱で仕事を得るため、女性や子供をそのまま置いて出稼ぎに行っている。</p> <p>女性は家の面倒をみたり、零細農業に長時間を費やしている。</p> <p>子供は学校に行くものの、家の事が教育より優先されるため、第6学年以上に進学することはめったにない。</p>	<p>ニティエーの住民への医療施設や治療オプションが復活した。</p>
--	--	---	-------------------------------------



3. マリ、ナファジ地区

下記の表は、BPRFが資金協力し、WaterAid が実施したマリの水プロジェクトの概要です。

このプロジェクトは、ナファジの現地パートナーである JIGI と提携し、マリの首都バマコ周辺に広がるスラム街にて実施されました。無計画な開発により、このエリアに住む貧困コミュニティには、インフラストラクチャが皆無に近い状態でした。2003 年には、推定で 1 万人がこのエリアで生活しており、そのうち安全な水にアクセスできるのは 50% 未満、衛生へのアクセスがあるのは 15% 未満。学校には水や衛生施設が完全に不足していました。

村の名称	バマコからの距離	備考	水プロジェクト導入前	水プロジェクト導入後
ナファジ地区 (ディアラコロバ)、バマコ、マリ	4.5 km	ナファジ、マリの首都バマコ周辺に広がるスラム街。無計画な開発により、このエリアに住む貧困コミュニティには、インフラストラクチャが皆無に近い。2003 年の推定では、1 万人がこのエリアで生活しており、そのうち安全な水にアクセスできるのは 50% 未満、衛生へのアクセスがあるのは 15% 未満。	<p>マリの飲料水の主要水源である帯水層は、人口が集中する南部方面に広がっているが、質も極端に低下する。</p> <p>公式の情報では、全人口の 48% が安全な水にアクセスがあると発表しているが、3分の1程度の手押しポンプが故障していると推定されることから、実際には 27% に近いと推定する筋もある。結果として水に起因する疾患が多く、小児死亡率はとてつもない。5 人に 1 人の子供は 5 才未満で死亡している。</p> <p>井戸の多くは気温の高い時期になると干からびてしまう。国民はベンダーから水を購入するか一日かけて 1.5km 離れたファジデジャイ</p>	<p>プロジェクト: 水供給用の配水塔を 5 つ設置。家庭用トイレを 64 個設置。家庭のあらゆる廃棄物を安全処理するためのコンポストを 55 個設置。衛生区域 (ブロック) を建設。</p> <p>建設作業完了して一年後に実施した調査結果では、対象人口の 96% が設置されたトイレを使用している。</p> <p>調査の対象者の 99% が食事前に手を洗う習慣がついた。</p> <p>プロジェクトの結果、推定 2500 人が安全な水が飲めるようになり、640 人が衛生にアクセスできるようになった。プロジェクトのコスト合計の 59,153 ドルのうち、ブループラネットランの出資分は 15,616 ドルである。</p> <p>女性は家事、掃除のほか、簡単なビジネスを営む時間</p>

Mali

WaterAid Mali

Area: 1,241,278 km²

Capital: Bamako

Other main cities: Koulikoro, Kares, Ségou, Tombouctou, Sikasso, Mopti, Gao

Population

12 million

Infant mortality

222/1000

Life expectancy

47.9 years

Water supply coverage

48%

Sanitation coverage

45%

Below poverty line

63.8%

Development index

174

Adult literacy

19%

		学校には水や衛生施設が完全に不足している。	ル(Fadjidigile)まで水汲みに行かなければならない。水汲みの列はとても長い。水汲みで往復すると一日費やすことになる。	をもつことができるようになった。 ナフェジの女性は朝一番に市場にでかけ、野菜を売ったり、手作り石鹸を売ったりして収入を得ている。
--	--	-----------------------	---	---

4. パノリ、アーメドナガー

下記の表は、BPRFが資金協力し、Watershed Organization Trust が実施したアーメドナガーの水プロジェクトの概要です。

村の名称	アーメドナガーからの距離	ダレワディからの距離	水プロジェクト導入前	水プロジェクト導入後
パノリパーナー地区、アーメドナガー	50 km (1時間)	80 km (1時間半)	<ul style="list-style-type: none"> 旧来の飲料水システムのインフラストラクチャは、パノリ村専用開発された。 インフラストラクチャは構築から16年が経過しており、一時的な目的を果たすためのものだった。パイプラインは2.5インチで水圧が低かった。容積2万7千リットルの古い貯水タンク(当時使用)の他に、使われていない容積1万リットルの貯水タンクがあった。 人口の増加とパイプラインの漏水が原因で、2.5インチのパイプラインからの水だけでは、必要量の3分の2しかまかなえず、村人は飲料水不足に直面している。 水圧が低いと、転送中に50%の水が失われてしまう。この廃棄率の高さによりシステムは3月から6月の重要な時期に機能しなくなってしまう。 20家族から構成されるカロケバステイという部落は危機的な飲料水不足の問題に直面している。この部落の女性は、時期によっては1-1.5 kmの距離を往復して水を運ぶ。 夏季には、タンカーで水が供給される。 女性や学校に通学中の子供たちがこの状況の一番の被害者となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトは無事完了し、2006年12月以降は恒常的に水が供給されている。 約200件の家庭、住民の1200名相当が本プロジェクトの恩恵を受け、飲料水が賄われるようになった。 容積7500リットルの新タンク設置のほかに、政府の資金援助で容積1万リットルの新タンクを2つ建設中。 配水塔を通じて72個の蛇口から毎日64500リットルの水が使用されている。 同時に、衛生や医療への意識や向上心も高まった。それに伴い、公衆トイレが13件建設され、65家庭が恩恵を受けているほか、個人トイレも55件設置され、使用されている。 女性グループがこの活動推進の中心的な役割を果たしており、村の衛生化に取り組んでいる。

バイバブの話(パノリ)

僕は、バイバブ・アルン・カロケと言います。12才です。パノリ村の小学校の7年生です。僕の家族は7人家族で、両親、二人の妹、祖父と祖母の姉がいます。祖父は73才で、祖父の姉(アージという敬称で呼んでいます)は人生で75ヵ所の泉を見てきた人です。僕は、祖父と祖父の姉と一緒に村に住んでいます。僕の両親と2人の妹は村の郊外の野原に住んでいます。僕の両親は、僕が5才になったときから学校のために僕を祖父に預けました。僕は学校に行くのと、年老いている祖父と祖父の姉の面倒を見るために、今も彼らと一緒に暮らしています。ここ10年、僕のアージ(祖母)は関節炎を患っており、寝たきりです。僕は料理、掃除、水タンクからの水汲みなど、家事をすべて行っています。

僕は毎朝6時におきて、祖父母にお茶を用意し、ポットを持って水タンクまで水を汲みに行きます。以前は、飲み水のシステムがうまく機能していなかったもので、僕や村の人達は色々大変でした。システムには技術的な問題があり、水がいつも手に入らなかったのです。家に水道はありましたが、水はまったく出てきませんでした。水の供給が不安定で、ポットを持って、水をもらいに長蛇の列に並ばなければなりません。それでも、ポットに入れる水がなくて、空っぽのポットを持って帰宅することもありました。それで、学校によく遅れていました。学校の昼休みにも、飲み水や他に使う水を確保するために、村から離れた場所にある個人の井戸まで行かなければいけません。学校が終わる夕方5時にも、村から離れた個人の井戸から水を汲んでこなければいけません。通常、家では毎日ポット9杯から10杯分(100~125リットル)の水が必要で、水のために1.5~2時間を費やしていました。このせいで、僕は勉強に集中できず、村の友達と遊ぶ時間でもありませんでした。

夏の間は、政府の給水車がやってきます。給水車は井戸に水を注ぎ、村の人は水を汲もうと一斉に井戸に走っていくため大混乱になり、ケンカもよくおきていました。僕が井戸にたどりつくのは、本当に大変でした。大きなおばさんたちをくぐり抜け、僕はなんとか井戸に辿りつき水を汲んでいました。

アーメドナガーの Watershed Organisation Trust の指導と支援サービスにより、新しいパイプラインが設置され、村全体のコミュニティに安全な飲み水が行き渡るようになりました。パイプラインができてからは、蛇口をひねるだけで水が沢山でできます。水は、毎日午前7時から7時半に供給されます。これにより、僕は重労働をしなくてすむので、学校に遅れずに行き、勉強にも集中できるようになりました。夕方も、友達と遊びにいけます。僕の生活は、ずっと楽になりました。

Watershed Organisation Trust とブルーブラネットラン財団の人達、どうもありがとう！



サンドラの話(マシギェト)

サンドラは、25 才。マシギウトで 8 人家族のもとに生まれ、13 才で夫のマーティンと結婚しました。マーティンは、皆に慕われるコミュニティのリーダーであり、村の近くの小さな土地の一面でとうもろこしや豆を栽培しながら零細農業を営んでいます。2 人には 12 才と 4 才の 2 人の息子がおり、マーティンが建てた快適な木造の家に住んでいます。

サンドラは、ブループラネット財団が出資したマシギウトの水プロジェクトの管理指導を行った委員会のメンバーです。彼女と近所の住民は毎日プロジェクトに取り組み、建設作業、水路の整備、湧き水から各家をつなぐパイプの開通作業を行いました。サンドラは、現在も委員会のメンバーとして活動しており、会計担当として各家族から毎月小額を集金し、修理が必要になった場合の資金準備を行っています。

水プロジェクトが実施される以前は、サンドラは水汲みのために粘土でできた水差しを肩に担ぎ 20 分かけて湧き水の所まで坂を下っていました。2 人の息子たちも、サンドラと一緒に小さな水差しを担いで水汲みを手伝っていました。サンドラの話によると、水が重いだけでなく、子供が大人ほど早く歩けないため、坂を上るのに約 40 分は費やしていたといいます。サンドラは、この水汲み作業を毎日午前と午後 7、8 回繰り返していました。

プロジェクト完了後は、いつでも裏庭の蛇口から水を出すことができるようになり、毎日 4、5 時間を水汲みに費やす必要がなくなりました。サンドラは学校に復帰し、プロジェクト完了から 2 年になる現在では、家から 4 キロ離れた場所にある La Calamidad 村の成人学校の高校 2 年生として、毎週土曜日通学しています。サンドラはバスの賃金を払えないので毎週土曜日は片道 5 キロ歩いて通学しなければいけません、今ならその時間があるのです。彼女は、「ありがとうございます。今では、学校に通い勉強することができます。」と言っていました。

今では裏庭の蛇口近くに野菜を何種類か栽培する時間の余裕もあり、ワイヤと、とげのある枝で囲いを作ってにわとりの侵入を防いでいます。教会での活動に充てる時間もでき、マシギウトのコミュニティーの 2 つの区域を管轄する小さなカソリック教会での礼拝、ワークショップや特別イベントに参加できるようになりました。これは以前は不可能だったことです。

